



日々のつぶやき—傷害制御考

第3回

NPO 法人 Safe Kids Japan

やまなかつひろ
山中龍宏

豆の危険性を周知する活動

2020年2月3日、松江市の保育施設の豆まきで、4歳児が豆をのどに詰まらせて死亡した。子どもの安全に最大の配慮が必要とされる保育の場で、以前から窒息死が発生することがよく知られている豆まきの豆で、また窒息死が発生した。

私は、これまで、研修会などの講演で「日本では、豆による気道異物が発生する日は決まっています。節分の翌日には、日本のあちこちで、耳鼻科医が気管支鏡で豆を取り出しています」と話していた。聴講している人は、豆が気道に入る危険性より、そんなことが起こることを面白がってか、笑って聞いていることが多い。豆が気管支を閉塞して死亡することがあるとは思わないようだ。小児科医であれば、気道異物の怖さをよく知っている。実際に豆やナッツ類の誤嚥を経験した医師なら、その危険性を熟知している。

これまでの予防活動は

松江市の事例があったことから、2020年2月半ばに、資料を保管している私のファイリング・キャビネ